

湘南ゴールド・はるみ（かいよう病に弱い品種）（成木）

【令和7年1月1日現在の農薬登録内容】2025版

※ 太枠は重要防除です。

月(時期)	対象病害虫	区分	使用農薬(倍率)
収穫後	かいよう病		ICボルドー66D 100倍(アピオンE 1000倍加用)又は ムッシュボルドーDF1000倍(クレフノン200倍加用) 発芽前であればアピオンE、クレフノンの加用は必要ない。 注) 病斑の付いた枝は剪定時に園外に持ち出す。 ICボルドー66Dはマシン油との散布間隔は14日以上空ける。
4月上旬	ミカンハダニ		アタックオイル 100倍又は ハーベストオイル 100倍又は スプレーオイル 100倍 注) 湘南ゴールドでは冬季マシン油散布が出来ないので、この時期必ず散布する。 はるみでは1月中旬(収穫後)に散布する。銅剤との近接散布は行わない。 注) カイガラムシ類を多く見かけた場合は アプロード水和剤1000倍をマシン油に加用し散布する。 注) ミカンナガタマムシによる枯死樹は5月以降、成虫発生源になるので、園外処分する。
5月上旬 ～ 5月中旬 (開花盛期 ～落弁期)	かいよう病		コサイド3000 2000倍 クレフノン 200倍(葉害軽減のために加用する)
	灰色かび病		フロンサイドSC 2000倍又は ストロビードライフロアブル 3000倍(そうか病に弱い品種は2000倍)
	コアオハナムグリ	劇	モスピラン顆粒水溶剤 4000倍 注) 灰色かび防除は満開から落弁期にかけて散布する(多発園は2回)。 訪花害虫多発園では2回以上散布する(3分咲きと満開時期)。 フロンサイドSCはかぶれに注意する。
6月中旬 ～ 6月下旬	黒点病		ジマンダイセン水和剤 600倍
	ミカンハダニ カイガラムシ類		アタックオイル 150倍又は ハーベストオイル 150倍又は スプレーオイル 150倍
	ミカンサビダニ アザミウマ類	劇 劇	ハチハチフロアブル 2000倍又は コテツフロアブル 6000倍 注) カイガラムシ類、多発園では、アプロードエースフロアブル1000倍を散布する。 サンホーゼカイガラムシが多発した時は5月下旬、 ヤノネカイガラムシが多発した時は6月上旬に散布する。 ※4月上旬にアプロード水和剤をマシン油に加用して散布した場合は、アプロードエースフロアブルの散布は不要。 アプロードエースフロアブルはミカンサビダニにも効果有り。 注) すず病はアブラムシ・コナジラミ・カイガラムシ類の排泄物に繁殖したカビが原因であり、害虫の防除が重要になる。 注) ミカンナガタマムシ・ゴマダラカミキリ成虫の発生園では、エクシレルSE 5000倍またはアクセルフロアブル2000倍を散布する。多発園では7月中～下旬も追加散布する。
6月下旬 ～ 7月上旬	かいよう病		コサイド3000 2000倍 クレフノン 200倍(葉害軽減のために加用する)
7月下旬 ～ 8月中旬	黒点病		ペンコゼブ水和剤 600倍又は ジマンダイセン水和剤 600倍
	ミカンハダニ ミカンサビダニ アザミウマ類 ミカンハモグリガ	劇	メビウスフロアブル 3000倍 注) カイガラムシ類を多く見かけた場合ではコルト顆粒水和剤 3000倍を散布する。
8月下旬 ～ 9月上旬	黒点病		ペンコゼブ水和剤 600倍又は ジマンダイセン水和剤 600倍
	ミカンハダニ ミカンサビダニ		ダニゲッターフロアブル 2000倍 又は ダブルフェースフロアブル 2000倍
	ヤノネカイガラムシ チャノキイロアザミウマ カメムシ類		スタークル顆粒水溶剤 2000倍
	かいよう病		コサイド3000 2000倍 クレフノン 200倍(葉害軽減のために加用する) 注) ダニゲッターフロアブル はコサイド3000とは混用できない
10月下旬 ～ 11月上旬	ハダニ類・サビダニ類		オマイト水和剤 750倍(収穫14日前まで)
12月下旬 ～ 1月上旬	貯蔵病害 青かび病、緑かび病		ベルコートフロアブル2000倍(収穫前日まで) トップジンM水和剤 2000倍(収穫前日まで) 注) 果実を袋かけする場合は、袋かけする前に散布を行う。

※マシン油とは、ハーベストオイル、アタックオイル、スプレーオイル等の総称です。

散布量は500～600㍓/10aを目安にタグリ散布する。

「農薬の使用は、使用基準を確認し、周りの他作物に農薬が飛散しないようにすること」